

東寺の法会用具

Kyoto Tô-ji Temple Special Exhibition

—祈りと美—



あしゅら



がらら



まごら



しこ



きんなら



しくとり




やしや

東寺は真言密教の根本道場として、また弘法大師信仰の寺として今日にいらっています。東寺においては灌頂会や弘法大師空海請来の仏舎利をまつる舎利会、再建された五重塔の落慶を祈る塔供養など、多くの法会が何度も行われました。

東寺の法会用具には、弘法大師空海請来の道具をはじめとして、道場を荘厳する曼荼羅や密教法具などがみられます。また、法会の行道に際して使用された行道面なども多く伝わり、貴重なものとして知られています。

法会用具は一つの法会だけではなく、別の法会で使用されたこともありました。使い続けることによって、現在にまで伝えられてきたという一面もあるといえるでしょう。使用された法会用具は、東寺の宝蔵に大切に保管されて現在に伝えられました。

今回の特別展では、平成二十三年度に重要文化財に指定された法会所用具類に焦点をあてて、東寺所蔵の工芸品の中から様々な宝物を時代ごとに選りすぐり展示します。この特別展を機に東寺千二百年の寺宝に触れていただければ幸いです。

 2012年春期特別公開

3月20日^火→5月25日^金

東寺【教王護国寺】宝物館

京都市南区九条町1番地 TEL075-691-3325

開館時間＝午前9時～午後5時30分(入館は5時まで) 会期中無休
拝観料＝大人500円 中学生以下300円

協賛＝社団法人 京都市観光協会・京都仏教会

重要文化財 法会所用具類について

東寺の法会所用具類は装束類、楽器類などからなっています。鎌倉時代から南北朝時代にかけて制作され、舍利会や塔供養などで実際に用いられました。中でも染織品類は失われやすいものですが、よく保存されており、当初の姿をうかがうことができる貴重なものです。

法会所用具類は、昭和28年3月31日に重要文化財に指定され、昭和32～34年に修理がおこなわれました。平成8年に別置されていたものが確認され、平成23年度に追加指定されました。

追加指定にあたっては、鎌倉時代の舍利会の道具にかんする記録「東寺舍利会具」（阿刀家文書）に記された装束類の名称と、銘文などの比較検討から、「大帷」「大口」「袴」に名称があらためられました。装束類は状態が悪く、今後の修理が必要とされているため、このたびの展覧会では、行道面や竜頭などを中心に展示しています。



ばち し
鉞 子



がぶら
辺楼羅

し しくとり
獅子籠



し しこ
獅子子



あしゅら
阿修羅



がくだいこ
楽太鼓



ばんえのほう
蛮絵袍



し しこ
獅子子



は へ
法 螺



し しくとり
獅子籠



ま ころ
摩喉羅



りゅう どう
竜 頭

追加指定された法会所用具類について

平成 23 年度に新たに追加指定された法会所用具類は、装束類・竜頭・行道面などです。装束類は、蛭絵袍^{はなえのほう} 3 領（熊文 1 領、獅子文 2 領）、大帷 2 領（いずれも右方）、大口 1 腰、袴（阿修羅）1 腰が追加されました。また附指定されていた「袴残闕」は「舍利会装束 袴」として追加指定されました。竜頭 9 頭はこれまで見いだされていなかったものですが、舍利会にさいして、幡をかけるために用いられました。鎌倉時代のものと、それより若干時代の降るものの二種類があります。

行道面は、八部衆（阿修羅・迦楼羅・緊那羅・摩睺羅・夜叉・天後頭部）6 面、獅子籠 3 面、獅子子 2 面の計 11 面が伝わっています。迦楼羅・摩睺羅・夜叉には後頭部が附属しておりひじょうに珍しいものです。八部衆の装束類と木履はすでに指定されていましたが、このたびの指定では面についても追加指定され、八部衆としてまとまった指定となりました。このように東寺の法会所用具全体が重要文化財に指定されて伝えられることに、大きな意義が認められるといえるでしょう。



緊那羅

重要文化財 法会所用具類の概要

新		旧	
法会所用具類		法会所用具類	39 点
水引 残闕共	6 枚	舞楽水引	6 枚
蛭絵袍	5 領	蛭絵袍	2 枚
舍利会装束 大帷	6 領	舍利会装束 衣 2 領袴 2 腰	2 組
舍利会装束 袴	4 腰	舍利会装束 衣	2 領
舍利会装束 大口	3 腰	舍利会装束 大口	2 腰
舍利会散花机前垂	1 枚	舍利会散花机前垂	1 枚
奚婁	1 口	奚婁	1 口
鼈	1 口	鼈	1 口
羯鼓 台付	1 口	羯鼓 台付	1 口
鼓胴 皮各二枚付	2 口	鼓胴 皮各二枚付	2 口
鉦鼓	1 口	鉦鼓	1 口
木履	5 両	木履	5 両
持物	13 本	持物	13 本
竜頭	9 頭	附 袴残闕	1 腰
行道面	11 面	附 舞装束箱	1 口
附 舞装束箱	1 口	附 太鼓皮	2 枚
附 法会所用具箱	2 合	附 舍利会装束残闕一括	
附 法会所用具箱	1 口		
附 太鼓皮	2 枚		
附 舍利会装束残闕一括			



獅子籠



夜叉

平成23年度の東寺境内発掘調査について

東寺は平安京造営にあたり、国家鎮護のために左京九条一坊の地に建立されました。東寺の境内のうち、伽藍を中心とした部分は国の史跡として文化財指定されています。その伽藍を囲む築地塀は、軸部の変形も甚だしく腐朽・汚損がみられます。そこで、平成22年度より東寺境内の史跡等保存整備事業としてその修理を実施することとなりました。

この事業にあたっては、文化庁をはじめ京都府・京都市監督のもと、建築・考古・史跡等の各分野の専門知識に造詣の深い学術研究者の指導をうけながら整備方針を検討し、事業を実施しています。

平成23年度は、昨年度にひきつづき、(財)京都市埋蔵文化財研究所に委託して、大宮通に面した築地塀(慶賀門～五重塔前)を整備する資料を得るために発掘調査を行いました。その結果、東大門より北側の東築地塀の基礎は、平安時代前期に地山を削りだして築かれたことが確認されました。また、現在の築地塀は、文禄5年(1596)の伏見大地震によって倒壊してから寛永21年(1644)の五重塔再建までに築かれたことが明らかとなりました。さらに、築地塀の構造は、下部は版築で固めてありますが、上部は外側が固い版築で、内側は石や瓦片を多く含む土による、叩き締め方の弱い構造であることがわかりました。平安時代から現在までの築地塀の変遷をみることのできる、他に類例のない、たいへん貴重な例といえます。

今後はこれらの解体や発掘の調査成果をもとに、修理方針を決定し、整備する予定となっています。本展覧会にあわせて、築地塀に使用されていた瓦などを展示し、解体と発掘調査成果の概要を紹介しています。



9 トレンチ全景：
平安時代前期から江戸時代前期の築地（南東から）



11 トレンチ：
築地の基礎に敷かれた白い化粧土（西から）



10 トレンチ西：
平安時代前期の築地柱西側礎石（北東から）

東寺の法会用具

Kyoto Tô-ji Temple Special Exhibition

—祈りと美—



2012年春期特別公開

3月20日(火) → 5月25日(金)

東寺【教王護国寺】宝物館

開館時間＝午前9時～午後5時30分(入館は5時まで)＊会期中無休

協賛＝社団法人 京都市観光協会 京都仏教会

展示目録

凡例

・総展示数 31 件 59 点、国宝 (●) 2 件 2 点、重要文化財 (◎) 10 件 28 点、京都市指定文化財 (□) 1 件 1 点、初公開 (※) 1 件 5 点です (展示替含む)。
・期間中、一部展示替えがございますので、ご了承下さい。

■前期 / 3月20日 (火) ~ 4月21日 (土) ■後期 / 4月22日 (日) ~ 5月25日 (金)

❖ 1 階展示室

指定 名称	員数	材質技法	法量 (cm)	時代	前期	後期
髪頭盧尊者坐像 <small>びんず る せんじや ぞ ざう</small>	1 軀	木造	像高 90.0	江戸時代	*	*
北総門扉板復元模型 <small>きたそうもんぴらいたふくげん も けい</small>	1 基	木製	総高 360.5	鎌倉時代	*	*
※軒平瓦 (寛永二十年銘) <small>のきひらがわら</small>	1 個		長 32.0 幅 28.6	江戸時代	*	*
※軒平瓦 <small>のきひらがわら</small>	1 個		長 31.7 幅 28.5	江戸時代	*	*
※軒丸瓦 <small>のきまるがわら</small>	1 個		直径 18.0 長 37.0	江戸時代	*	*
※丸瓦 <small>まるがわら</small>	1 個		長 39.5 幅 18.5	鎌倉時代	*	*
※丸瓦 <small>まるがわら</small>	1 個		長 35.0 幅 15.6	室町時代	*	*
◎羯磨 <small>かつま</small>	4 口		径 16.8	平安時代	*	*
◎水精念珠 <small>すいしょうねんじゅ</small>	1 連	水精製	総長 91.5	平安時代	*	*
◎金銅舍利塔 <small>こんどうしゃりとう</small>	1 基		総高 49.5	平安時代	*	*
木製華鬘 <small>もくせいけ まん</small>	2 枚	木製彩色	総長 28.5	鎌倉時代	*	*
◎五重小塔 <small>ごじゅうのしょうとう</small>	1 基	木製	総高 161.0	鎌倉時代	*	*
樂太鼓 <small>がくだいこ</small>	1 基		総高 124.0	江戸時代	*	*
鉦鼓 <small>しょうこ</small>	1 基		総高 75.0	江戸時代	*	*
法螺 <small>ほら</small>	2 口		長 28.8	室町時代	*	*
銅鑼 <small>どら</small>	1 口		径 29.5 厚 3.4	鎌倉時代	*	*
◎鉞子 <small>ばっし</small>	1 対		径 27.8 高 4.5	鎌倉時代	*	*
※◎法会所用具箱 (宝徳二年銘) <small>ほうえしゅうようぐばこ</small>	1 合	木製	総高 32.8	室町時代	*	*
地藏菩薩半跏像 <small>じざうぼつはんかざう</small>	1 軀	木造	像高 87.0	鎌倉時代	*	*
弘法大師坐像 <small>こうぼうだいし ざ ざう</small>	1 軀	木造彩色	像高 83.4	江戸時代	*	*
宝蔵模型 <small>ほうざう も けい</small>	1 基	木製	総高 99.7	現代	*	*
□梵鐘 (足利尊氏寄進) <small>ぼんしょう あしかがたかうじ きしん</small>	1 口	鑄銅製	総高 168.0 重量 1.2t	南北朝時代	*	*
鬼瓦 阿形・吽形 <small>おにがわら あ ぎょう うんぎょう</small>	2 個		(各) 縦 81.8 横 85.0 重量 84.3kg	江戸時代	*	*

❖ 2 階展示室

◎東宝記 卷六	1 卷	紙本墨書	縦 34.3 横 1958.0	南北朝～室町時代	*	
◎後醍醐天皇塔供養願文	1 卷	紙本墨書	縦 43.6 横 366.6	南北朝時代		*
◎東寺舍利会記（観智院聖教 132 箱 7 号）	1 卷	紙本墨書	縦 28.3 横 454.4	南北朝時代	*	
◎弘法大師請来目録（観智院聖教 73 箱 4 号）	1 卷	紙本墨書	縦 25.7 横 963.2	鎌倉時代		*
◎獅子皷（行道面八部衆のうち）	3 面	木造彩色	面長 20.9-21.2	鎌倉時代	*	*
◎阿修羅（行道面八部衆のうち）	1 面	木造彩色	面長 31.9	鎌倉時代	*	*
◎緊那羅（行道面八部衆のうち）	1 面	木造彩色	面長 44.3	鎌倉時代	*	*
◎迦楼羅（行道面八部衆のうち）	1 面	木造彩色	面長 39.6	鎌倉時代	*	*
◎摩睺羅（行道面八部衆のうち）	1 面	木造彩色	面長 35.2	鎌倉時代	*	*
◎夜叉（行道面八部衆のうち）	1 面	木造彩色	面長 32.0	鎌倉時代	*	*
◎獅子子（行道面八部衆のうち）	2 面	木造彩色	（各）面長 25.5	鎌倉時代	*	*
◎竜頭	3 頭	木製彩色	53.5-57.0	鎌倉時代	*	*

❖ 2 階ホール

両界曼荼羅図	2 幅	絹本著色	（胎藏界）縦 102.2 横 83.4 （金剛界）縦 102.3 横 83.5	鎌倉時代	*	
両界曼荼羅図	2 幅	絹本著色	（胎藏界）縦 140.4 横 125.6 （金剛界）縦 138.7 横 125.6	室町時代		*



❖ 常設

◎千手観音立像	1 軀	木造漆箔	像高 584.6	平安時代	*	*
地藏菩薩半珈像	1 軀	木造	像高 86.2	平安時代	*	*
◎兜跋毘沙門天立像	1 軀	木造	像高 189.4	唐時代	*	*
愛染明王坐像	1 軀	木造彩色	像高 111.4	南北朝時代	*	*
◎地藏菩薩立像	1 軀	木造	像高 162.4	平安時代	*	*
如来坐像	3 軀	鑄銅	像高（各）90.0	明時代	*	*

◆拝観にあたってのご注意

- ・有料拝観の受付は〔①宝物館〕〔②観智院〕〔③金堂・講堂・五重塔（初層公開は4/27～5/25のみ）〕の3ヶ所あります。
どこから拝観されても結構です。御影堂（大師堂）と大日堂は参拝できます。
- ・拝観中は、ほかの人の迷惑にならないよう、お静かにご覧下さい。
- ・寺宝に触れないよう寺宝の写真・ビデオ撮影、スケッチなどはいしようにお願いします。
- ・手荷物はお預かりできません。宝物館一階のコインロッカーをご利用ください。
- ・東寺は、世界文化遺産に指定されています。境内を清潔に保つためゴミは各自お持ち帰りください。

